

市町村名	嘉手納町							
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	観光プロモーション事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(2)－ウ		
担当部課名	産業環境	事業実施(予定)年度	令和3～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	観光誘客を図るため、観光イベント等においてプロモーション活動を行う。また、観光客の利便性の確保のため、町の観光主要施設等への誘導案内板等を整備する。							
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和6年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R3年度	R4年度	R5年度				
	予算の状況	(a)当初予算額	13,925	13,294	25,786			
		(b)予算現額	11,348	13,294	29,615			
		(c)増減額(b-a)	▲2,577	0	3,829	0	0	
		(d)繰越額						
		A.計(b+d)	11,348	13,294	29,615	0	0	
	B.執行済額		10985	11207	29,614			
	うち交付金充当額		8788	8965	23,691			
	次年度繰越額		—	—	—			
	執行率(%) (B/A)		96.8%	84.3%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		当初、誘客イベントを1回の予定としていたが、9月補正で6,295千円増額し2回へ変更。また、町内主要観光施設への案内標識(6箇所)を含めた実施設計を、モニュメントを含めた案内板の実施設計としたため、2,200千円を減額した。不用額267千円については委託の入札残や補助金の実績に伴う減。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度			
	観光イベントへの出展(6回)	目 標	()	(3回)	(6回)	()		
		実 績		3回	8回			
	誘客イベントの実施(2回)	目 標	()	()	(2回)	()		
		実 績			2回			
	観光案内板等設置工事実施設計の完了	目 標	()	()	(完了)	()		
		実 績			完了			
	達成状況説明	実績として、観光イベントへの出展を8回、誘客イベントを2回開催し、その他は計画通りの活動ができた。						
	成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
【R5成果目標】 町入域観光客数、792千人以上		目 標	()	()	(792千人)	(542.8千人)	(542.8千人)	
		実 績			550千人	590.4千人		
【R5成果目標】 誘客イベント来場者数、2.8千人		目 標	()	()	()	(2.8千人)	()	
		実 績				4.7千人		
進捗状況説明		成果目標としていた、町入域観光客数542.8千人に対し590.4千人、誘客イベント来場者数2.8千人に対し4.7千人と両項目において目標達成となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・新型コロナの影響も落ち着きを見せたことで、観光客や修学旅行等の需要回復が見られた。 ・観光施設において、来場者より場所がわかりにくい等の声があった。 ・プロモーション事業におけるツールについて、有効的な活用だけでなく、更なる周知の波及効果を高める必要がある。	・紙媒体だけでなく、SNSなどを活用し、本町はもとより、沖縄に訪しなくても情報を手に入れられるような情報発信方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・令和6年度においても、引き続き観光協会にプロモーション活動を行ってもらうが、観光協会HPのリニューアル(単費)を行うため、イベント出展等とリンクする等、より波及効果が高まるプロモーション活動を行う。 ・観光案内版等の整備に関して、設置工事を行い観光客の利便性を確保する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
29,614	29,614	23,691	5,923	0

嘉手納町
29,614千円

印刷製本費
1,417千円

(同)コムコンサルタント
405千円

(株)東洋企画印刷
1,012千円

ドライブマップ作成

ガイドブック作成

委託料
2,002千円

(株)日興建設コンサルタント
2,002千円

嘉手納町モニュメント設計委託

補助金
26,195千円

(一社)嘉手納町観光協会
26,195千円

観光プロモーション事業補助金

資金の 使途の 流れ・ 点検・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○観光協会への補助金は要綱に基づいて支出しており、妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	観光振興推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部課名	産業環境課	事業実施(予定)年度	令和5～令和6年度		沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進	
事業内容	本町の観光振興を推進するため、嘉手納町観光振興基本計画策定に向けた基礎調査を実施する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和7年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R5年度				
	予算の状況	(a)当初予算額	11,000				
		(b)予算現額	10,890				
		(c)増減額(b-a)	▲110	0	0	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	10,890	0	0	0	0
	B.執行済額		10,890				
	うち交付金充当額		8,712				
	次年度繰越額		—				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		不用額110千円については、委託の入札残による不用額。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
	基礎調査の実施	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	実施				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	計画通り実施し、目標を達成することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R5年度			目標値(R6年度)
	基礎調査の完了	目 標	()	(完了)	()	()	(計画策定)
		実 績		完了			
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	計画通り実施し、目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	【観光振興に対する町民・事業者の意識向上】 町民や町内事業所の観光振興に対する理解度を向上させていく必要がある。 【人材育成や推進体制の強化】 観光協会と連携できる推進体制整備する必要がある。 【周辺市町村との連携】 周辺市町村との連携構築を進める必要がある。 【重点プロジェクト以外の施策の取組の具体化】 取組内容について深堀ができていない取組が多かった。 【事業予算の確保】 取組の具体化や必要性が明確になっていないため、予算確保が難しい。	【観光振興に対する町民・事業者の意識向上】 ・住民も参画できる取組の推進 ・ワークショップや意見交換会等の開催 【人材育成や推進体制の強化】 観光協会の体制の拡充を図るとともに、商工会を始めとした町内関係者と連携し、観光振興に係る役割分担を明確にした実行体制作りを検討する。 【周辺市町村との連携】 本町の位置づけや役割を検討したうえで、周辺市町村との相乗効果を図るための観光推進の連携内容を検討する。 【重点プロジェクト以外の施策の取組の具体化】 地域資源の保全・継承を図っていくための施策及び地域資源を活用した観光コンテンツの磨き上げを検討する。 【事業予算の確保】 取組の具体化・必要性について明確化し、観光振興事業を推進するための予算化を検討する。
今後の取り組み方針		
令和6年度に策定する観光振興基本計画において、課題解決・目標値を設定し、達成に向け観光施策を実施していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>10,890</td><td>10,890</td><td>8,712</td><td>2,178</td><td>0</td></tr> </table> 嘉手納町 10,890千円 委託料 10,890千円 (株)オリエンタルコンサルタンツ 10,890千円 〔第3次嘉手納町観光振興基本計画 策定基礎調査委託業務〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,890	10,890	8,712	2,178	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,890	10,890	8,712	2,178	0										
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町							
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-③	スポーツツーリズム推進計画策定事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-(ア)		
担当部署名	企画財政課	事業実施(予定)年度	令和5年度		沖縄振興基本方針該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化		
						Ⅲ-1-(1)		
事業内容	プロスポーツチームの合宿誘致やスポーツ大会の誘致、受入態勢の構築などに関するスポーツツーリズムを推進計画を策定し、スポーツを通じた新たなまちづくりの戦略を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		R5年度					
			(a)当初予算額	11,374				
			(b)予算現額	9,649				
			(c)増減額(b-a)	▲1,725				
			(d)繰越額					
	A.計(b+d)		9,649					
	B.執行済額		9,346					
	うち交付金充当額		7,477					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		96.9%					
予算の状況の説明		公募型プロポーザルによる契約額により12月補正において、825千円を減額した。不用額1,203千円については直接経費(交通費等)の精算に伴うものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況					
			R5年度					
	スポーツツーリズム推進計画策定	目標	(計画の策定)	()	()	()	()	
		実績	計画の策定					
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
達成状況説明	・3競技団体を本町へ招聘し、施設の視察を行い、誘致活動を実施した、 ・受入体制を構築するために、観光協会及び商工会などスポーツコミッション設立に向けた協議を行った。 ・スポーツツーリズム庁舎内検討委員会を開催した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R5年度			目標値(年度)	
	スポーツツーリズム推進計画策定	目標	()	(策定)	()		()	
		実績		策定				
	【参考指標】	目標	()	()	()		()	
		実績						
	進捗状況説明	サッカー・ラグビー・ソフトボール競技団体を招聘し、本町における合宿誘致に向けた課題を整理した。スポーツツーリズム協議会立ち上げに向けて、課題を整理した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) ①サッカーやラグビー、ソフトボール競技の合宿を誘致するためには、現在の施設を改修する必要がある。施設の老朽化により、アスリートが充実した練習が出来ないため、競技団体の誘致に支障をきたすことが予想される。 ②本町ではスポーツキャンプ等を受入れる団体がいないため、行政や商工会、観光協会が一体となった団体の設立が求められている。	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) ①施設のリニューアルについて、施設の課題の整理や財源の確保などプロスポーツ競技団体誘致に向けた取り組みを実施する必要がある。 ②各関係団体とスポーツキャンプ等の受入団体設立に向けた協議を行い、課題の抽出や方針を策定する必要がある。
	今後の取り組み方針 ①施設のリニューアルについて、施設の課題の整理や財源の確保に向けて調整を行う。 ②スポーツキャンプ等の受け入れ団体設立に向けて、関係団体と協議を行い、スポーツコミッション設立に向けた方針を策定する。	

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費			交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
9,346	9,346	7,477	1,869	0


```

graph LR
    A[嘉手納町  
9,346千円] --> B[委託料  
9,346千円]
    B --> C[スポーツデータバンク沖縄(株)  
9,346千円]
  
```

The flowchart illustrates the disbursement of funds. On the left, a large vertical box represents the source: 嘉手納町 (Kagoshima City) with 9,346 thousand yen. An arrow points from this box to a central box labeled 委託料 (Commission fee) for 9,346 thousand yen. Another arrow points from the central box to a final box on the right representing the recipient: スポーツデータバンク沖縄(株) (Sports Data Bank Okinawa Co., Ltd.) for 9,346 thousand yen.

市町村名	嘉手納町						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	学習支援員事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	児童生徒の学力向上を図るため、教師と連携を図りながらチームティーチングを行うとともに、夏休み等に個別指導や放課後の補習授業を行う学習支援員を小中学校に配置した。 ※チームティーチング:複数の教職員が役割を分担し、協力し合いながら指導する方法						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	13,226	17,983	17,421	21,458	25,315
		(b)予算現額	12,935	16,017	14,442	24,549	26,164
		(c)増減額(b-a)	▲291	▲1,966	▲2,979	3,091	849
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		12,935	16,017	14,442	24,549	26,164
	B. 執行済額		11,242	16,017	14,442	24,306	26,545
	うち交付金充当額		8,993	12,048	11,553	19,445	21,236
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		86.9%	100.0%	100.0%	99.0%	101.5%
予算の状況の説明		予算の執行については、適切に管理している。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	学習支援員の配置数 小学校:6人 中学校:3人	目標	(小学校4人 中学校2人)	(小学校4人 中学校2人)	(小学校6人 中学校3人)	(小学校6人 中学校3人)	
		実績	小学校4人 中学校2人	小学校4人 中学校2人	小学校6人 中学校3人	小学校6人 中学校3人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・学習支援員を本町小学校に6名(2校に3名)、中学校に3名(1校に3名)配置した。 ・小学校においては、学級担任とのチームティーチングとして個別の対応や放課後の補習指導を行った。 ・中学校においては、学習内容の定着が十分でない生徒を対象に、学級内で個別のチームティーチングを通じての学習支援や放課後(毎週月、水、金)、長期休業中の補習、数学検定対策講座を行った。 ※チームティーチング:複数の教職員が役割を分担し、協力し合いながら指導する方法						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差 小学校: 県平均並み、それ以上 中学校: 県平均-3ポイント以内	目標	()	(小:-4.1 中:-7.5)	(小:-0.5 中:-7.1)	小:県平均並み 中:県平均-3	()
		実績		小:+5.1 中:-3.8	小:+4.4 中:-3.7	小:-0.7 中:-2.3	
	小学校: 正答率30%未満の児童の割合県平均より減少 中学校: 正答率30%未満の生徒の割合県平均より減少	目標	()	()	()	小:県割合より減少 中:県割合より減少	()
		実績				小:県割合より減少 中:県割合より微増	
	進捗状況説明	令和6年度 沖縄県到達度調査の県平均と比較すると、小学校はわずかに目標達成できなかったが、中学校は目標値を達成することができた。 令和6年度 沖縄県到達度調査(2月)の結果 ○小学校・・・小5算数:県平均 58.5%、本町 57.8%【-0.7ポイント】、正答率30%未満の児童の割合県より減少 ○中学校・・・中2数学:県平均 43.2%、本町 40.9%【-2.3ポイント】、正答率30%未満の生徒の割合県より微増 学習支援員と管理職が支援の在り方を共有することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①小学校においては、-0.7と県平均をわずかに下回り、目標を達成できなかった。しかし、学級担任が授業を進めながら、学習支援員が対象児童を1箇所に集め、児童にあった丁寧な個別指導を行う体制が図れている。両校のうち、1校は、給食時間や放課後等の隙間時間を活用し、学習支援が個別に対象児童の補習にあたっている。 ②中学校においては、少しづつ、県との差が縮まっている。生徒の補習の在り方や対象生徒の洗い出し等工夫や改善を行い、補習を対象生徒のみだけでなく、生徒が自主的に参加するように掲示や開催を促す案内状を作成し配布するなどしたことで、補習に参加する生徒が夏休みも徐々に増えていった。	①学習支援員の役割、授業における役割の共通確認を強化し、対象児童生徒を明確化する事で、年々成果が出ている。さらに、小学校同士の効果的な取組を紹介し合う等、連携を図っていく。 ②これまでの取組で効果があった取組の継続と、中学校においては取組を1年間を通してコツコツ繰り返し取り組んできた成果が出たので継続と、新しく配置された支援員への確実な実践の情報共有を行う。
今後の取り組み方針		
①学習支援員の役割の明確化、授業時の児童生徒への支援の在り方等管理職、教科、学級担任と連携し共有する場を継続して実施する。 ②小学校において、取組の共通性が図れていない部分があったので、教育委員会が担当教諭、学習支援員の役割、管理職と学習支援員の活用について協議を行い、小学校同士の連携を図り、うまくいっている取組の共有など支援、助言を行う。運用にあたっての学習支援員との情報共有の場連絡会を設け指導体制の統一を図る。 ③前年度しっかり定着してきた、補習や隙間時間を活用しての取組において、定着が不十分な児童生徒、学習に不安をもつ児童生徒への補習を継続して個に応じた指導を実施する。		

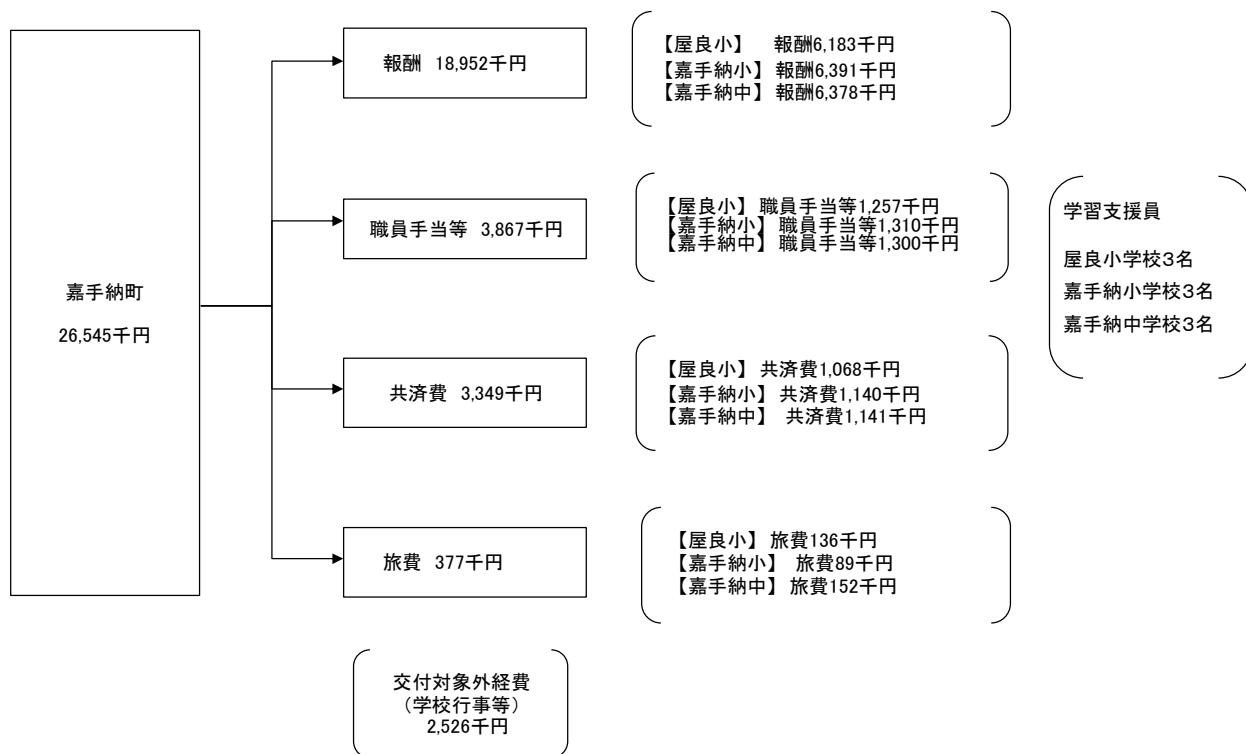
今後の取り組み方針

- ①学習支援員の役割の明確化、授業時の児童生徒への支援の在り方等管理職、教科、学級担任と連携し共有する場を継続して実施する。
②小学校において、取組の共通性が図れていない部分があったので、教育委員会が担当教諭、学習支援員の役割、管理職と学習支援員の活用について協議を行い、小学校同士の連携を図り、うまくいっている取組の共有など支援、助言を行う。運用にあたっての学習支援員との情報共有の場連絡会を設け指導体制の統一を図る。
③前年度しっかり定着してきた、補習や隙間時間を活用しての取組において、定着が不十分な児童生徒、学習に不安をもつ児童生徒への補習を継続して個に応じた指導を実施する。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
29,071	26,545	21,236	5,309	2,526



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。 ○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。 ○費目・使途については、報酬と共済費のみであり、支援配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	英語力強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	教育課程特例校として小学校では英語に親しむ環境をつくり、中学校は実用的な英語を学ぶため、英会話指導員を配置し、同時に中学校は個別の学習支援、英会話の実践化のための英語指導員を配置し、児童生徒の英語への興味・関心を高め、英語力向上を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	18,277	13,358	12,371	8,841	10,365
		(b)予算現額	17,686	12,179	9,497	9,502	10,009
		(c)増減額(b-a)	▲591	▲1,179	▲2,874	661	▲356
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		17,686	12,179	9,497	9,502	10,009
	B. 執行済額		15,636	12,179	9,455	9,396	9,678
	うち交付金充当額		12,508	9,127	7,563	7,517	7,742
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		88.4%	100.0%	99.6%	98.9%	96.7%
予算の状況の説明		予算の執行については、適切に管理している。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	英会話指導員配置数 小学校2人、中学校1人	目標	(小学校3人 中学校1人)	(小学校2人 中学校1人)	(小学校2人 中学校1人)	(小学校2人 中学校1人)	
		実績	小学校3人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	英会話指導員(ALT)を小学校2名、中学校1名配置した。 小学校では、学級担任とALT,英語指導員とで連携し外国語の授業及び外国語活動の展開している。 中学校では、担当教師とALT,英語指導員で、英会話の授業を展開している。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	英語に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、本人のアンケートにより、本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		80%	82%	85%	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・小学校において、児童のアンケートで「1,2年生において「英会話の授業は好きですか」「これから英語をもっとべんきょうしたいですか」の項目で94%の児童がはいと答えている。また、小学校3,4年生においても興味関心を問う質問項目では81%以上の児童がはいと答え、数値目標を達成した。 ・小学校において、「英語で自分の考えを話す・聞く」「英語で自分の考えを書いたり、読んだりする」ことへの意欲においては80%以上が肯定的に回答している。 ・中学校においては、「英語で自分の考えを話す・聞く」「英語で自分の考えを書いたり、読んだりする」ことへの意欲において86%以上の生徒が肯定的に回答し目標を達成した。 ・中学校において、「コミュニケーション」をとることへの意欲は高いが、学校以外で、英語を使う機会やコミュニケーションをとる機会とは依然として少ない傾向がある。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・小学校のアンケート結果から、英語に関する興味関心は、前年度の80%から85%とさらに向上している。 ・特に、小学校低学年において、英会話指導員が日々の授業において英語教材に工夫を凝らし、担任と連携し児童の英語に対する興味関心が高まるような教材作成により児童が英語の授業を楽しく学ぶ環境が充実できていたことが意欲の向上につながった。 ・英会話指導員も小中で意見交換する場を持つことができた。 ・どうしても学校の授業以外での英語の活用は、小学校、中学校ともに依然として肯定的な数値は低い。	・小・中学校で連携した英語授業改善研修会を行い、英会話指導員と英語担当教師の連携を図り、各学校において、児童生徒が英語に親しむ環境づくりを行う。 ・英会話指導員は、担当教諭と連携を図り授業の中で、「英会話」を実践し、かつ児童生徒が実際に活用(アウトプット)する場面(授業)づくりを行う。 ・児童生徒の英語力向上のため、4技能のどの部分で落ち込みがあり、どのように指導を行えばいいか課題の検証を図る必要がある。 ・英語アンケートを担当教諭と見直しを図ることで児童生徒につけたい力の確認ができたので令和6年度も共有を図る。
今後の取り組み方針		
①効果的な授業方法づくりのために、小中学校英会話指導員と英語担当教諭を対象とした「外国語授業改善研修会」を今年度は専門指導主事を招聘し、小中連携研修会の充実を図る。 ②「外国語授業改善研修会」の中で、授業づくりと児童生徒が授業以外での会話をするための場面設定や課題など共通で確認し意図的に英語の活用について達成を図る。 ③英語アンケートの英語アンケートを担当教諭と見直しを図ることで児童生徒につけたい力の確認ができたので令和6年度も共有を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10,168</td><td>9,678</td><td>7,742</td><td>1,936</td><td>490</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,168	9,678	7,742	1,936	490
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,168	9,678	7,742	1,936	490										
嘉手納町 9,678千円 報酬 6,887千円 職員手当等 1,478千円 共済費 1,276千円 旅費 37千円 【屋良小】報酬2,284千円 【嘉手納小】報酬2,284千円 【嘉手納中】報酬2,319千円 【屋良小】職員手当等492千円 【嘉手納小】職員手当等493千円 【嘉手納中】職員手当等493千円 【屋良小】共済費431千円 【嘉手納小】共済費431千円 【嘉手納中】共済費414千円 【屋良小】旅費0千円 【嘉手納小】旅費37千円 【嘉手納中】旅費0千円 交付対象外経費 (学校行事等) 490千円 会計年度任用職員 英会話指導員3名														
資金使途の流れ・点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。 ○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。 ○費目・使途については、報酬と共済費、旅費のみであり、指導員配置事業に必要なものに限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	生徒指導強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	不登校の生徒に対して家庭や関係機関と連携を図りながら特別な支援をしていくことで、学校復帰等の不登校の改善を図るため、指導支援員を配置した。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	3,541	2,194	2,341	4,908	8,304
		(b)予算現額	3,566	2,152	2,300	5,701	7,320
		(c)増減額(b-a)	25	▲42	▲41	793	▲984
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		3,566	2,152	2,300	5,701	7,320
	B. 執行済額		3,565	2,148	2,100	5,646	7,278
	うち交付金充当額		2,852	1,622	1,679	4,517	5,823
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.8%	91.3%	99.0%	99.4%
予算の状況の説明		予算の執行については、適切に管理している。 小学校で5か月の欠員が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	生徒指導支援員配置数 小学校1人 中学校:1人 スクールソーシャルワーカー(SSW) 配置数 教育委員会:1人	目 標	(中学校1人)	(中学校1人)	中学校1人 (教育委員会1人)	小学校1人 (中学校1人 教育委員会1人)	
		実 績	中学校1人	中学校1人	中学校1人 教育委員会1人	小学校1人 中学校1人 教育委員会1人	
			目 標	()	()	()	()
			実 績				
達成状況説明	不登校生徒や長期欠席者等の早期支援や未然防止等の支援の充実を図るために小学校と中学校へ生徒指導支援員を配置した。また、問題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働き掛けたり、関係機関等とのネットワークを構築するために教育委員会へスクールソーシャルワーカー(SSW)を配置し登校しても学級へ復帰できていない生徒に対して校内での居場所づくり、学習支援等の支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	不登校出現率 2.7%以下	目 標	()	(2.3%以下)	(2.6%以下)	(2.7%以下)	()
		実 績		2.1%	2.50%	3.0%	
			目 標	()	()	()	()
			実 績				
	進捗状況説明	・令和5年度の不登校児童生徒数は、全体で42名で、不登校の出現率は3.0%となり、目標値より-0.3で目標を達成できていない。 ・小学校と中学校を分けると、小学校が18名、中学校が24名で、不登校の出現率は小学校が1.9%、中学校が5.4%となり、中学校が目標値より-2.7で目標を達成できていない。 ・中学校の不登校生徒のうち、8名は前年度からの継続、16名が新規の生徒である。 ・登校復帰したのは16名で、登校支援や別室での学習支援など、青少年センターや生徒指導支援員の丁寧なかかわりによるところが大きい。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①不登校生徒の要因として「無気力」や「生活リズム」、「家庭の状況」等がある。迎えに行ったり強く催促すると登校するが長続きしない等、心因性や無気力の傾向が多く見られる。 ②不登校の解決に向けて児童生徒の家庭、学校、関係機関との連携が重要である。 ③学校へ登校したときの居場所において、人数によっては十分な支援ができないときがある。	①学級担任や生徒指導主任、生徒指導支援員とSSWとの情報共有を密にして児童生徒の支援につなげる。 ②不登校の支援については、SSWや関係機関との連携により、居場所づくりや自己肯定感を高める体験活動等が必要である。 ③学校から家庭との連絡を密にするなど、児童生徒に対する家庭との連携の強化を図る。 ④学校へ登校してきたが、まだ教室へ復帰できない児童生徒の居場所を確保し、その際の支援を充実させる必要がある。
今後の取り組み方針		
①学校やSSW、青少年センター、関係機関と連携した誰一人取り残さない支援を行う。 ②不登校児童生徒の家庭との連携を密にするため、生徒指導支援員とSSWとの情報共有の強化を図る。 ③理由なし欠席3日以上の子児童生徒への家庭訪問の確実な実施により、家庭との連携を図る。 ④登校してきたが教室へ入れない児童生徒に対して教室以外の居場所を確保し、教室復帰にむけた学習支援、体験活動、教育相談などの支援を充実させる。 ⑤不登校支援員の確実な人員確保に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,437	7,278	5,823	1,455	158

嘉手納町
7,278千円

報酬5,329千円

職員手当等969千円

共済費917千円

旅費63千円

交付対象外経費
(学校行事等)
158千円

不登校対策生徒指導支援員 2名
SSWスクールソーシャルワーカー1名

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。 ○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。 ○費目・使途については、報酬と共済費、旅費のみであり、指導員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町							
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-④	秋田県交流学习体験事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア		
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成26～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実			
					Ⅲ-3-(1)			
事業内容	小中学校における学習規律や授業の改善を図るため、本町の児童生徒及び教師を教育先進地である秋田県大館市内の学校へ派遣する。また、大館市の教師を招聘し、授業改善等についての研修を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,235					3,834
		(b)予算現額	3,322					3,560
		(c)増減額(b-a)	▲913	0	0	0	▲274	
		(d)繰越額						
		A.計(b+d)	3,322	0	0	0	3,560	
	B.執行済額		3,322				3,537	
	うち交付金充当額		2,657				2,830	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	99.4%	
予算の状況の説明		予算の執行については、適切に管理している。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況					
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	<秋田県への派遣> 児童生徒:20人、教員:9人 <秋田県からの招聘> 教員:3人		目標	()		()	(実施)	
			実績				実施	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明	・9月に秋田県大館市より教育長1名、教諭2名を招聘した。招聘した教育長が本町の教諭へ教育講演会を行った。招聘した教師は、本町の教諭とのチームティーチングや教材研究、示範授業をおこなった。 ・10月に小中学生20名、教諭9名を秋田県大館市へ派遣した。児童生徒は、各学校で現地の小中学校で授業や学校行事を体験した。本町教諭は現地の教諭とのチームティーチングや教材研究、授業実践をおこない、校長教頭は小中それぞれの校長教頭との意見交換の機会をもち学校経営等について説明を受けた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)			基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	①(派遣された児童生徒へのアンケート) ・「学習規律を学ぶことができたか」で80%以上ができた」と回答		目標	()	()	()	(80%)	()
			実績				100%	
	②(授業改善に関するアンケート) ・「授業のねらいに合わせた学び合いの場の設定」に関する項目で80%以上の教師が取り組んで」と回答		目標	()	()	()	(80%)	()
			実績				90%	
	進捗状況説明	派遣された児童生徒のアンケートでは、どの生徒も「学習規律について学ぶことがたくさんあった」と回答している。「発表者に体を向けている」「途中で質問しない」などの聞く態度や「発表者の答えを否定しない(受容と共感)」「聞いている人の反応を確認しながら話す」など話す態度を学んだとの声があった。 教師のアンケートでは、「授業の質の向上に向けた、学校や教科の壁を越える取組」について参考になったかで90%が肯定的な回答をしていることや、記述のなかに「探求型の授業改善に生かしていきたい」「すぐにできることから始めたい」など教育に対する意欲の高まりを示す感想が多くみられた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	教師や児童生徒のアンケートでは成果目標を達成しており、「小1から小6まで縦割りで行う清掃活動」「授業のなかで子供たちにかかる、多くのほめ言葉(ボイスシャワー)」「生徒が主となる自治活動(生徒会活動)」など体験から学んだことを実践しており、成果が感じられる結果となっている。	①引き続き児童生徒の派遣を実施し、多くの児童生徒に学習規律が学べる機会を提供していく。また、学んできたことを実践させるため、教師へのはたらきかけを強化する必要がある。 ②小中の学びの連続性を見ることで、成長の系統性を確認し、授業改善の必要性や改善への意欲の向上に資すると考えるため、実施が必要である。
今後の取り組み方針		
①体験してきた児童生徒が、学んできたことを広げるリーダーとしてのはたらきかけや、場の提供、すぐにアウトプットさせる話し合いの場を設定し、助言支援する。児童生徒の学びを学校で、アウトプットさせる方法を学校と共有し広めていく。 ②小学校教師は中学校へ中学校教師は小学校へ移動して授業参観し、小中一貫の学びの連続性を本町の現状と比較させることで、小中連携した授業改善の必要性を授業改善研修会を持ち授業改善を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,597</td><td>3,537</td><td>2,830</td><td>707</td><td>60</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,597	3,537	2,830	707	60
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,597	3,537	2,830	707	60										
嘉手納町 3,537千円 → 委託料 3,537千円 → (有)スカイ観光サービス 3,537千円 〔対象外経費 60千円〕														
資金使途の流れ、点検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、業者より見積を徴収し、計上したものであり適正である。 ○使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	特別支援教育支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ	
担当部課名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成28～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	発達障害等により特別な支援を要する児童生徒に対し、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、町内の各小中学校に特別支援教育支援員(教育サポーター)を配置した。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算の状況	(a)当初予算額	43,306	38,129	37,186	27,644	36,266
		(b)予算現額	34,247	32,924	27,535	25,867	32,617
		(c)増減額(b-a)	▲9,059	▲5,205	▲9,651	▲1,777	▲3,649
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		34,247	32,924	27,535	25,867	32,617
	B. 執行済額		31,448	32,805	27,361	25,275	32,223
	うち交付金充当額		25,158	24,815	21,888	20,220	25,778
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		91.8%	99.6%	99.4%	97.7%	98.8%
予算の状況の説明		予算の執行については、適切に管理している。 一部の雇用者で欠勤が生じた。小学校と中学校において合計約9ヶ月の不在期間があった為、不用額が発生した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	特別支援教育支援員配置数 小学校:14人、中学校6人	目標	(小学校13人 中学校5人)	(小学校13人 中学校5人)	(小学校14人 中学校5人)	(小学校14人 中学校6人)	
		実績	小学校13人 中学校5人	小学校13人 中学校3人	小学校14人 中学校5人	小学校14人 中学校6人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	嘉手納小学校においては目標数の7名の特別支援員を配置に対し、約1ヶ月の不在期間があった。また中学校においては目標の6人の配置に対し約8ヶ月の不在期間があった。特別支援対象児童生徒(中学校28名、小学校64名)に対して不在期間においては十分な支援を行うことができなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
	対象となる児童・生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		90%	85%	80%	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	対象となる児童生徒の保護者に対し、支援員の配置によって子どもの学校生活や学習上の困り感が改善されたかについてアンケートを実施したところ、「改善された」「どちらかというと改善された」の数値の合計が80%となり、目標を達成した。 今年度、新しく入った支援員もいたが、研修会や講話を開催し講師より助言を貰うだけでなく、研修会では、小中の支援員でお互いに意見交換しスキルアップに繋げることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①アンケートの記述欄には、教育サポーターの関わりについて概ね肯定的な内容が記されていた。しかし、今後の支援に係る要望として小学校において、「子供との関わりが少ないと感じた」「サポーターの方との情報共有の場がほしい。」など子どもとの関わり方に対する要望や面談を希望する要望があげられた。 ②毎年度数人サポーターが新規採用となり子供たちへの対応能力に差があったが、今年度は、特に半分以上支援員が変わった学校は、昨年度以上に差がみられた。	①学校によってほとんど、新規のサポーターに変わり、これまで校内でベテランサポーターの方に相談していた事や教えて漏れた事が少なくなった。今後、研修のみならず、サポーターの方が、学校を超えた連携をする機会を持つ必要がある。 ②児童生徒の成長と共に、支援状況・環境は常に変化するので、継続して支援員、個々のスキルアップの為に、研修を昨年度に引き続き実施し、サポーター研修会での協議を行う機会を持つ必要がある。子ども達が自立した学校生活を送ることができることを最終目標に、実態に合わせた適切な支援方法について、支援員のスキルアップを図る必要がある。
今後の取り組み方針		
①1回目の研修会では「サポーターとしての役割」特に、「自立を促す支援」について協議を深めるとともに、講師による課題レポートへの助言を通して、支援員の資質能力や意欲向上を図る。 ②支援員個々のスキルアップのための年に6回の研修を今年度も実施するが、新規採用のサポーターの方が増えたので、子ども達への対応や保護者の要望の共有等、学校を超えて、情報交換やアドバイス協議ができる場を設定し、スキルアップに繋げていく。また、新年度サポーターの役割の「講演会」を実施することでどの対象児も満足する支援を受けられるようにする。 ③各学校の支援員の困り感や声を聴いたり、アドバイスできるように放課後の各学校でのサポーター同士のミーティングに月1～2回参加する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>41,835</td><td>32,223</td><td>25,778</td><td>6,445</td><td>9,612</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	41,835	32,223	25,778	6,445	9,612
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
41,835	32,223	25,778	6,445	9,612										
嘉手納町 32,223千円 報酬29,546千円 職員手当等2,677千円 【屋良小】 報酬10,526千円 【嘉手納小】 報酬10,856千円 【嘉手納中】 報酬8,164千円 【屋良小】 職員手当等0千円 【嘉手納小】 職員手当等1,252千円 【嘉手納中】 職員手当等1,425千円 屋良小7名 嘉手納小7名 嘉手納中6名 交付対象外経費 (学校行事等に係る報酬、職員手当等、共済費、旅費) 9,612千円														
資金使途の流れ、点検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。 ○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。 ○費目・使途については、報酬と共済費、旅費のみであり、支援配置事業に必要なものに限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	ICT機器活用推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	society5.0に対応する教育の推進		
事業内容	Ⅲ-3-(1)						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	88,637				
		(b)予算現額	83,547				
		(c)増減額(b-a)	▲5,090	0	0	0	
		(d)繰越額	0				
		A.計(b+d)	83,547	0	0	0	
	B.執行済額		83,547				
	うち交付金充当額		66,837				
	次年度繰越額						0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	ICT機器の整備	目 標	電子黒板、デスクトップPCの整備	()	()	()	()
		実 績	電子黒板67台 デスクトップPC60台				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	小学校に電子黒板44台、デスクトップパソコン40台、中学校に電子黒板39台、デスクトップパソコン20台を整備した。 夏季休業期間中に電子黒板等を整備できるよう計画的に準備を進め、1学期後半開始までに機器整備を実施・完了することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(年度)
	児童生徒にアンケート調査を実施し、電子黒板の活用により、授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	目 標	()	(80%以上)	()	()	()
		実 績		85%			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	全児童生徒1,368人中1,163人が「電子黒板を使った授業は分かりやすかった」又は「どちらかというと分かりやすい」と回答しており、目標を達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・アンケート結果においては、大多数の児童が電子黒板等を授業で利用していることが分かった。しかし、教職員の中で機能活用の展開力の違いにより、電子黒板を使用することで児童生徒が得られる教育機会に差が生じている。	学校間や教職員間でのICT機器使用頻度や利活用の格差を縮小するため、ICT支援員による支援の強化を行い、授業での活用方法を示しうまく展開するよう働きかけていく。また、安定した通信ネットワークや故障対応など環境整備や機器の維持に引き続き取り組む。
今後の取り組み方針		
電子黒板等を活用した効果的な授業事例などを各学校と共有し、日々積極的な授業活用を推進する。また、研修会の実施、機器のメンテナンス、ICT支援員によるサポートも引き続き行い、授業での活用率と児童生徒の授業理解度の向上を目指す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>90,455</td><td>83,547</td><td>66,837</td><td>16,710</td><td>6,908</td></tr> </table> 嘉手納町 (90,455千円) 備品購入費 (90,455千円) 有限会社 昭和事務機社 (90,455千円) 交付対象外経費 (ICT授業支援ツール等) 6,908千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	90,455	83,547	66,837	16,710	6,908
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
90,455	83,547	66,837	16,710	6,908										
資金使途の流れ、点検・評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦	プログラミング力育成事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-(イ)	
担当部課名	嘉手納町教育委員会 社会教育課	事業実施 (予定)年度	令和5年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	ICT教育の充実		
事業内容	情報通信関連産業と連携し、プログラミング出前講座を放課後時間を実施し、プログラミングの仕組みや思考を体験することによりプログラミング力を養い、プログラミングへの興味関心を高めることで、将来的なIT関連産業の担い手となる児童がICTに親しむ機会を増やす取り組みを推進する。						
効果発現年度	☒ 当年度 ☐ 後年度(年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R5年度				
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	5,709				
		(b) 予算現額	5,546				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 163	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	5,546	0	0	0	0
	B. 執行済額		5,137				
	うち交付金充当額		4,110				
	次年度繰越額						0
	執行率 (%) (B/A)		92.6%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		プロポーザルにより契約額が当初予算より3千円程下がった分を3月補正にて減額。その後精算を行い、見込額より参加児童数が満たなかった分の傷害保険料・マイクラフトライセンス料、カリキュラムの変更による外部講師による講座回数の減に伴う減額などが不用額743万円の主な減額の理由					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
	町立学校にて、情報通信関連産業によるプログラミングの出前講座を80回以上の開催。	目 標	(80 回)	()	()	()	
		実 績	83回				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	・町立小学校2校で80回以上の目標としていたが、1校の講座開催日に学校の都合上休みとなることが多く40回以上の開催は不可であったが、もう1校に関しては人数も多く、随時募集により遅れて参加した児童にも十分に体験してもらうため43回開催し、合わせて83回の開催となった。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R5年度			
	参加者へ体験後にアンケートを実施し、プログラミングへの興味関心が高まったか(80%以上)を成果目標とする。 ⇒プログラミングを今後も続けたいか	目 標	()	(80%以上)	()	()	
		実 績		89%			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	進捗状況説明	参加児童へアンケート調査を実施し、プログラミングを使った操作について「難しい(36%)」との回答があったが、「楽しい(100%)」、「プログラミングを今後も続けたい(89%)」、「授業の満足度:満足及びやや満足(98%)」となった。 大半の児童が初めてプログラミングを体験している中で、手ごたえのある回答が得られたため、内容が飽きないよう、工夫しながら継続して実施することで、更に興味関心や習得度が上がっていくと思われる。 児童の進学に伴い参加児童が入れ替わるため、目標値は80%以上を維持できるように設定する。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・児童が取り組みやすい教育版のマイクラフトを中心にプログラミング学習を進めたことが目標達成の要因と考えられる。 ・小学3年生から6年生の年齢差や経験者と未経験者が入り混じった環境であったが、各児童に合わせたカリキュラムの進め方や教え方で進めたことで、取りこぼされることなく各児童がプログラミングを学ぶことが出来たことで、各児童の満足度が高くなり、もっと学びたいという意欲の向上につながった。 ・児童が今後もプログラミングを学びたいという意識が高かったことから、継続して学ぶためには、中学生になってもプログラミングを学べる環境の必要性が生じた。	・教育版マイクラフトが児童に受け入れやすかったことから継続して利用する。その他プログラミングを使って操作することが楽しいが難しいという回答もあったことから、習熟度を上げるためには継続して繰り返し学ことで乗り越える喜びへつなげることができる働きかけの工夫が必要。 ・児童からは参加希望があったが、保護者が申込をすることがなくそのまま参加できない児童が多かったため、保護者への周知徹底が必要。 ・中学生にもプログラミング講座の開催が必要。
今後の取り組み方針		
・教育版マイクラフトをメインで継続利用するに当たり、その上でカリキュラム内容に変化を付け参加児童の意欲を高めつつ、プログラミングに触れ学べるよう進める。 ・保護者への周知方法の工夫を図る。 ・中学生まで拡充してプログラミング講座を開催する。その際は、小学校での学習をよりレベルアップした内容のカリキュラムで進める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,137	5,137	4,110	1,027	0

嘉手納町
5,137千円

委託料
5,137千円

共同企業体:株式会社ツクリエ、株式会社コノ街デザイン
5,137千円

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○参加児童数が定員数に満たなかったことから、不用額は事業費の約12%生じたが、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担はないが、人材育成の観点から家庭の経済状況等により参加が断念されることが無いよう、平等に体験の場を提供することで児童の参加促進を図っているため、妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

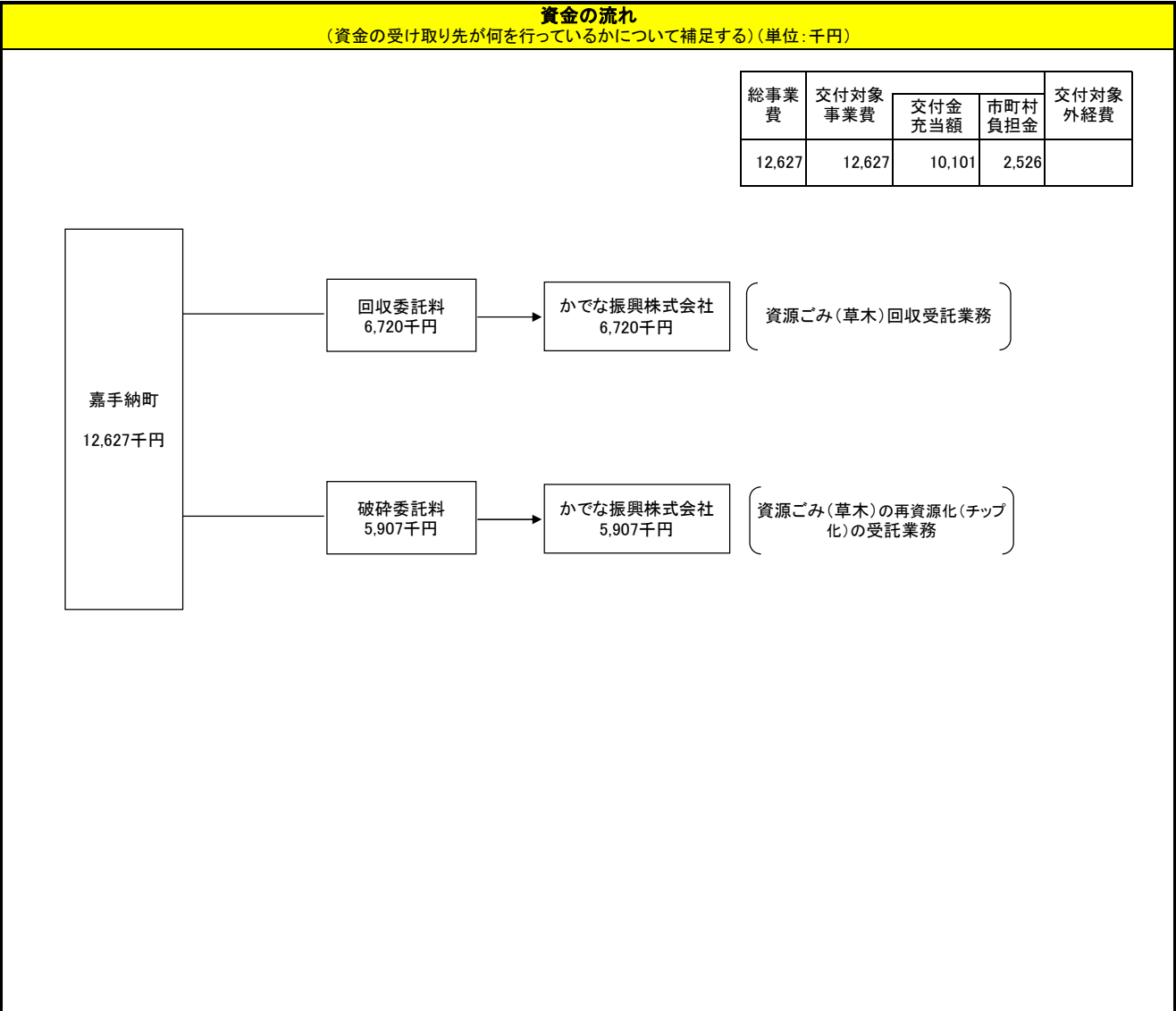
市町村名	嘉手納町						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用促進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ア	
担当部課名	産業環境課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和5年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援		
Ⅲ-2							
事業内容	就職相談窓口を開設し、就労支援を行うことで、新規就労者の増加を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	3,298	2,381	2,424	2,381	2,366
		(b)予算現額	3,257	2,381	2,424	2,381	2,366
		(c)増減額(b-a)	▲41	0	0	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	3,257	2,381	2,424	2,381	2,366
	B.執行済額		3,256	2,381	2,410	2,381	2,367
	うち交付金充当額		2,604	1,903	1,928	1,904	1,893
	次年度繰越額		—	—	—	—	—
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	99.4%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行を行った。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	相談窓口開設(毎週火・金曜日) 89日	目 標	(90日)	(93日)	(90日)	(89日)	
		実 績	90日	92日	90日	89日	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成 状況 説明	計画通り実施し、目標を達成することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)
	相談者のうち、就職が決まった人数	目 標	()	(8人)	(10人)	(8人)	()
		実 績		7人	10人	7人	
	相談者のうち、就職が決まった人数の割合	目 標	()	(3.4%)	(3.0%)	(2.6%)	()
		実 績		2.0%	3.9%	2.1%	
	進 捗 状 況 説 明	・嘉手納町民の利用人数は延べ334人で、全体の77%となり、前年比11%増であった。 ・就職した人数は7人で前年比3人減となり、その割合は2.1%で両目標に届かなかった。 ・後追い調査ができた人数に対する就職率は25%で、前年比15%の減であった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・本事業を知った経緯の内、最も多かったのは役場訪問時で52%(町内:49.9%)、続いて広報誌が19.6%(町内:22.8%)であることがわかった。 ・応募書類の書き方や面接対策、求人検索などの具体的な就職活動よりも、ガイダンスツールの希望者が多いことから、自身の興味関心や特性・特徴、向いている仕事は何か等の自己分析を望んでいる方が多いことがわかった。 ・後追い調査できた人数が57.8%で前年比19.3%のマイナスとなった。	・紙媒体での事業周知が主となっているため、更なる利用者増に向けてSNSを活用した周知方法を検討する必要がある。 ・新たなガイダンスツールを検討する必要がある。 ・より多くの後追い調査が行えるよう、調査方法の改善又は周知が必要である。
今後の取り組み方針		
・新たな事業周知方法として、本町の公式LINEを活用した周知を行っていく。 ・引き続きガイダンスツールを活用した相談を実施し、自己分析結果に基づいたサポートができる体制を構築する。 ・より多くの方に後追い調査が行えるよう実施方法の改善を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,367</td><td>2,366</td><td>1,893</td><td>473</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,367	2,366	1,893	473	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,367	2,366	1,893	473	0										
嘉手納町 2,367千円 → 委託料 2,367千円 → 株式会社プラスキャリア 2,367千円 (就職支援活動総合窓口業務)														
資金使途の流れ、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、執行率95%以上であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	廃棄物リサイクル事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 沖縄振興基本方針 該当箇所	第4章-1-(1)-イ	
担当部課名	産業環境課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和13年度			社会生活における資源循環の 推進	
						Ⅲ-10-(1)	
事業内容	ごみの排出量を削減し、ゴミ処理施設及び最終処分場の長寿命化を図るため、本町で排出される草木を回収、チップ化し、再資源化を行った。						
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)						
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	13,837	13,393	13,437	13,827	14,011
		(b) 予算現額	13,404	16,582	13,093	14,207	13,582
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 433	3,189	▲ 344	380	▲ 429
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	13,404	16,582	13,093	14,207	13,582
	B. 執行済額		13,026	15,228	12,051	13,024	12,627
	うち交付金充当額		10,420	12,183	9,641	10,418	10,101
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		97.2%	91.8%	92.0%	91.7%	93.0%
予算の状況の説明		入札により単価が減額して当初設計金額より減額となったこと、年度上半期の搬入量より算出した下半期搬入予想量で予算額を計上していたが、予想量以下の搬入量となったことにより執行率は91.9%となっている。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	目 標	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	
		実 績	全草木ごみの再資源化済	全草木ごみの再資源化済	全草木ごみの再資源化済	全草木ごみの再資源化済	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	搬入された草木ごみ725,840kg全てを再資源化した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)
	排出された草木ごみの再資源化率100%	目 標	()	(665t以上)	(854t以上)	(100%)	()
		実 績		708.8t	784.8t	100%	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	搬入された草木ごみを全て再資源化することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・成果目標を機器の破碎可能量(年間稼働可能時間より算出)としているが、搬入量はその量を下回っているため目標達成となっていない。 ・令和5年度上半期において大型台風が発生したため搬入量が多く、下半期の予想量を計上するのが困難であった。	・使用している機器の修繕に約一月も時間を要した。次年度において機器の更新を実施する。
今後の取り組み方針		
これまで培われてきた破碎技術の情報の共有や、機材の更新により稼働時間を増やし、受託事業者と連絡を密にとり、持続可能な事業実施に努める。		



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・回収業務は町内受託可能業者1社より徴した見積書と予定価格との比較による随意契約、破碎業務は入札により支出先の選定を実施しており、妥当である。 ・回収業務は一般廃棄物収集業務と比較し、破碎業務は本町で処分せずに民間に持ち込んだ場合の処理経費と比較し、予算規模につきましても妥当性を確認している。 ・費目・使途については、毎月精算を実施しており、目的に即し、必要なものであったと確認している
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	避難施設防災機能強化整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(4)-ア	
担当部署名	総務課 管財防災係	事業実施(予定)年度	令和5年度～13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	危機管理体制の強化	
						Ⅲ-10-(3)	
事業内容	沖縄県は島嶼県であり、自然災害による被害も多いことから、町民や観光客等の災害時の安全確保を図るため、防災非常食等の計画的な導入を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R5年度				
	予算の状況	(a)当初予算額	7,037				
		(b)予算現額	6,733				
		(c)増減額(b-a)	▲304	0	0	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	6,733	0	0	0	0
	B.執行済額		6733				
	うち交付金充当額		5387				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		計画どおりに執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度				
	町内の避難所等における備蓄品等の整備を行う。 【備蓄食料等の整備内容】 ・備蓄食料 4,050食 ・粉ミルク 29缶 ・保存水(2L) 225本 ・保存水(500ml) 8,100本	目標	・備蓄食料(4,050食) ・粉ミルク(29缶) ・保存水2L(225本) ・保存水500ml(8,100本)	()	()	()	
実績		・備蓄食料(4,050食) ・粉ミルク(29缶) ・保存水2L(225本) ・保存水500ml(8,100本)					
達成状況説明	沖縄県は島嶼県であり、災害時において必要な防災備蓄品を最大限備える必要があることから、防災非常食等の計画的な導入を行い、災害時の町民や観光客等の食料及び飲料水等の確保を図った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R5年度			目標値(年度)
	年1回以上防災訓練等を実施	目標	()	(1回)	()	()	()
		実績		1回			
	アンケートを実施し、備蓄の重要性を感じたとの回答割合:「80%以上」	目標	()	(80%以上)	()	()	()
		実績		92%			
進捗状況説明	沖縄県は島嶼県であり、自然災害による被害も多いことから、町民や観光客等の災害時の安全確保を図るため、防災非常食等の計画的な導入を図った。また防災に関する出前講座を行い、アンケート調査を実施し、防災備蓄食料の重要性について92%の回答を得た。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・今後も、備蓄食料等整備計画に基づき、計画的に備蓄食料等の整備を行う。	・備蓄食料等の入替については、備蓄食料等整備計画に基づき、年次毎に入替業務を行う。 ・防災への啓発活動等をまつりイベント会場等で防災ブースを設置して啓発活動を継続して行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・野國総管まつり会場において、防災ブースを設置し、賞味期限が近付いた備蓄食料等を配布し、啓発活動を行いながら入替を行う。 ・沖縄県広域地震・津波避難訓練等において、町内団体へ参加を促し、備蓄食料等の確認を行い、配布することで普及啓発を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>6,733</td><td>6,733</td><td>5,387</td><td>1,346</td><td></td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,733	6,733	5,387	1,346	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,733	6,733	5,387	1,346											
嘉手納町 6,733千円 → 消耗品 6,733千円 → (有)昭和事務機社 6,733千円 【 備蓄食料等購入 】														
資金使途の流れ、点検・評価項目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	嘉手納町									
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	6-①		嘉手納町公共施設等省エネ化推進事業				新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-1-(1)-ア	
担当部署名	社会教育課			事業実施 (予定)年度	平成30年～令和5年 度		沖縄振興基本方針 該当箇所		脱炭素島しょ社会の実現に向け たエネルギー施策の推進	
Ⅲ-10-(1)										
事業内容	照明機器の使用によるCO2の排出量を削減するため、公共施設等の照明を環境負荷の少ないLED照明に切り替える。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	119,200	31,440	53,330	235,920	2,255			
		(b)予算現額	95,360	41,800	53,185	148,200	2,090			
		(c)増減額(b-a)	▲23,840	10,360	▲145	▲87,720	▲165			
		(d)繰越額								
	A. 計(b+d)		95,360	41,800	53,185	148,200	2,090			
	B. 執行済額		95,360	41,800	53,185	123,200	2,090			
	うち交付金充当額		76,287	33,440	42,548	98,560	1,672			
	次年度繰越額									
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	83.1%	100.0%			
予算の状況の説明										
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)			達成状況						
					R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	嘉手納小学校等グラウンド照明LED化			目 標	()	()	()	()	(削減効果を設計)	
				実 績					設計完了	
				目 標	()	()	()	()		
				実 績						
達成 状況 説明	当初予定通り、設計を実施し完了した。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)				基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)	
	嘉手納小中学校グラウンド照明設備のLED化による二酸化炭素排出量の削減効果を設計後に、算出し設定する。			目 標	()	()	()	(削減効果 を 設計)	()	
				実 績				設計完了		
	【参考指標】 二酸化炭素排出量の削減効果を設計後に、算出し設定した。			目 標	()	()	()	(削減効果 を 設計)	()	
				実 績				設計完了		
	進 捗 状 況 説 明	当初予定通り、設計を実施し完了した。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	築20年が経過し、その間様々な修繕等が行われた結果、設計当初の図面にはない設備があるなどの混乱が生じた。	設計当初の図面に記載されていない設備については記録を更新することで、図面と現場の相違を防止し、改修工事がスムーズに行えるよう資料等を提供できるようにする。
今後の取り組み方針		
・今後も嘉手納町地球温暖化防止計画目標(3,439,027kg-CO2)の達成に向け、町全体で継続してCO2削減を推進していく。 ・日頃から施設利用者及び管理者で不必要な個所の消灯を徹底するとともに周知を行うことで、照明の点灯時間の削減を行うなど、節電対策の取組みを継続して実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,090</td><td>2,090</td><td>1,672</td><td>418</td><td>0</td></tr> </table> 嘉手納町 2,090千円 業務委託費 2,090千円 (株)ニライ設備設計 2,090千円 嘉手納小学校等グラウンド照明LED化推進 工事実施設計業務委託					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,090	2,090	1,672	418	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,090	2,090	1,672	418	0										
資金使途の流れ、点検・評価項目	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○設計事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額が少ないため予算規模は適正と判断した。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												